

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 建造物部会(第24回)

日時：平成30年2月8日(木) 10:00～12:00

場所：本丸御殿孔雀之間

会 議 次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

本丸御殿復元工事について

- ・工事状況について
- ・工事工程表
- ・建築装飾ワーキングの検討内容報告
- ・本丸御殿完成公開時の観覧ルートについて

4 その他

5 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 建造物部会（第24回）出席者名簿

日時：平成30年2月8日（木）10:00～12:00

場所：本丸御殿孔雀之間

（敬称略）

■構成員

氏名	所属	備考
小浜 芳朗	名古屋市立大学名誉教授	座長
溝口 正人	名古屋市立大学教授	副座長
小松 義典	名古屋工業大学大学院准教授	
麓 和善	名古屋工業大学大学院教授	

■オブザーバー

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 建造物部会（第24回）資料

資料目次

本丸御殿復元工事について …p1～p5

本丸御殿完成公開時の観覧ルートについて…p1

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 建造物部会（第24回）資料

資料目次

本丸御殿復元工事について …p1～p5

本丸御殿完成公開時の観覧ルートについて…p1

1 本丸御殿復元工事について

1-1 工事状況について

《本丸エリア》素屋根内部状況

上洛殿、上御膳所では内部造作工事を、黒木書院では内部造作工事、屋根工事、左官工事を、湯殿書院では内部造作工事、左官工事を行っています。



①[上洛殿] 内部状況 [H29. 8]



②[上洛殿] 屋根状況 (東より臨む) [H29. 8]



③[上御膳所] 内部状況 [H29. 8]



④ [黒木書院] 屋根状況 (南東より臨む) [H29. 8]



⑤[湯殿書院] 屋根状況 (北西より臨む) [H29. 8]



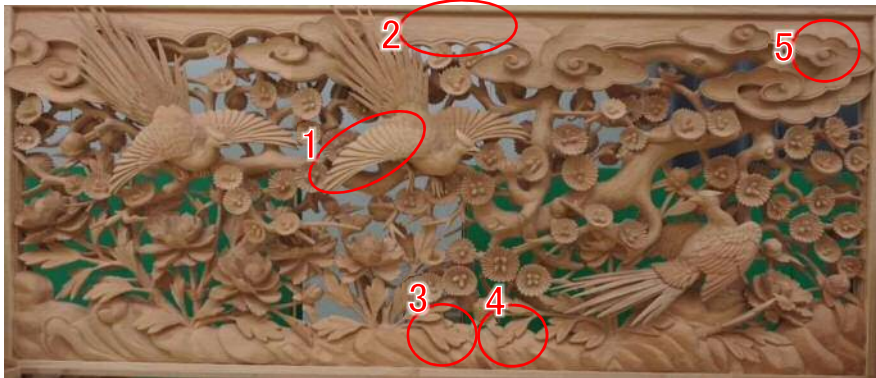
⑥[湯殿書院] 内部状況 [H29. 8]

1. 本丸御殿復元工事について

1-3 建築装飾ワーキング等の検討内容報告

ワーキング実施日：平成29年2月6日、4月4日、8月10日

① 上洛殿欄間彫刻 粗彫り～本彫り進捗状況について



上洛殿二之間東側長押上欄間 北より1枚目 (表 設計No.9)

- 1 羽根の薄さ加減は二条城を参考に
する。
- 2 平面的なので面をもう少し丸くす
る。
- 3 葉は表向きとする。
- 4 彫りが裏向きなので表に
すること。
- 5 雲の中心を少しくぼませる。

共通事項

- ・ 葉の表裏の区別は古写真をもう一
度よく観察する。
- ・ 全体的に雲のエッジが立ちすぎて
いるので古写真をもう一度よく観
察して面をとること。



同上古写真

- 6 立上りの部分は古写真をもう一度
よく観察する。
- 7 立上りの部分は古写真をもう一度
よく観察する。
- 8 茎の曲がりをもっと滑らかにする。
- 9 古写真をもう一度よく観察し形状
を確認すること。
- 10 古写真をもう一度よく観察し茎の
出方を確認すること。
- 11 雲の中心が丸く出すぎているので
もう少し抑える。

共通事項

- ・ 松葉の糸面がとれてない。
- ・ 土坡が全体的に丸すぎるように見
える。
- ・ 古写真をもう一度よく観察しエッ
ジのあるなしなど注意して確認す
ること。
- ・ 枝も古写真をもう一度よく観察し
仕上げてゆくように。



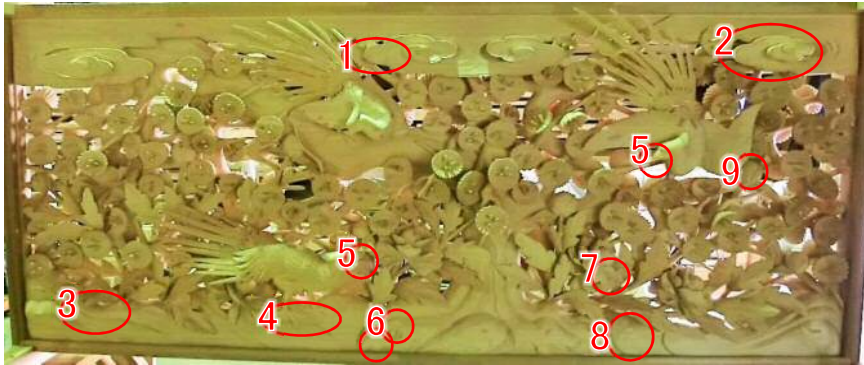
上洛殿三之間西側長押上欄間 南より2枚目 (裏 設計No.10)



同上古写真



(欄間配置 設計No)



上洛殿二之間東側長押上欄間 北より2枚目 (表 設計No.11)

- 1 雲の輪郭に自然さを持たせる。
- 2 雲の出が大きすぎないか。全体を見てバランスをとること。
- 3 鑿跡をもう少しつける。
- 4 脚は踏ん張っている様子が出るとよい。
- 5 嘴が短く見えるのもう少し薄くするとよい。
- 6 根の曲がり方を大きくとる。
- 7 花弁が平面的なのでもう少し立体的にする。
- 8 土坡の盛り上がり部分を上にあげる。
- 9 花弁の重なりに段差をつけ立体的にする。



同上古写真



上洛殿南入側境西側長押上欄間 (表 設計No.13)

- 10 雲は古写真を観察し、部分だけでなく隣り合う雲との関係を考慮し、出を考えること。
- 11 花の芯の向きが違う。
- 12 土坡が盛り上がりすぎている。全体のバランスを見て修正すること。
- 13 勾配がきつい。奥行きを出し、緩くする。
- 14 曲がり方が丸すぎる。節がある部分を表現する。
- 15 土坡の凹凸が違っているのでよく観察すること。



同上古写真



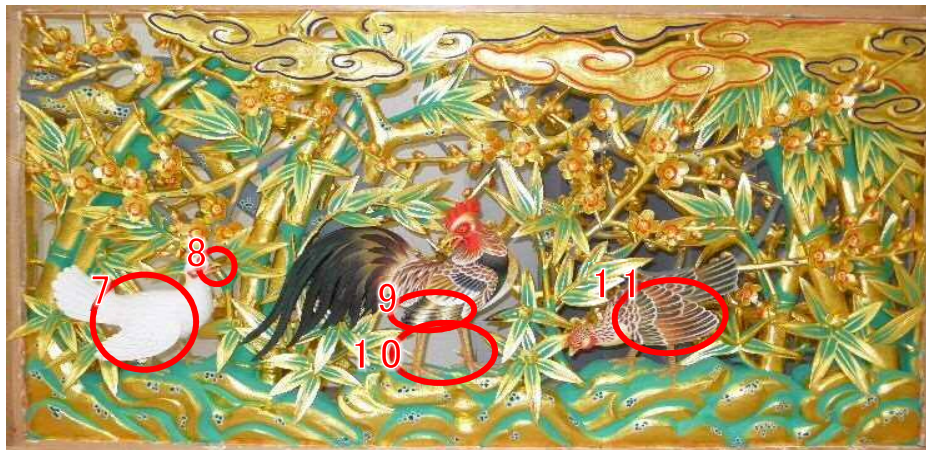
(欄間配置 設計No)

② 上洛殿欄間彫刻 彩色について



上洛殿一之間東側長押上欄間 北より1枚目 (表 設計No.5)

- 1 苔の感じが古写真と違う。原寸大写真を写しとったことだが写し切れてない。
- 2 喉に線を描き入れること。
- 3 古写真に基づき羽の中心の線を太くする。
- 4 ぼかしは三段階にする。毛の流れ方が違っている。
- 5 毛を長めに描くこと。
- 6 台の線は太くすること。



上洛殿一之間東側長押上欄間 北より2枚目 (表 設計No.7)

- 7 古写真では羽の毛描きがもっと見えている。
- 8 鼻の穴まわりのぼかしが大きいので小さくすること。
- 9 墨線を入れること。
- 10 足の模様の数が違う。
- 11 毛の描き方が違う。

共通事項

- ・ 鶏の塗り方が現代的すぎるような気がする。



上洛殿一之間北側長押上欄間 西より1枚目 (表 設計No.1)

- 12 羽は先端のぼかしがある。灰色と白の配色が逆。
- 13 古写真をよく観察すること。目の下にぼかしあり。色が付きすぎている。



(欄間配置 設計No)

③ 第3期鋳金具の作成方針について



U型金具

- ・平成28年8月30日のワーキングでの熟覧の際、「真鍮に金箔が施してあるように見えるので、X線分析で確認するとよい」、という意見から、本年度7月に分析を行った結果、金が使用されていることがわかった。
- ・真鍮打掛金具の仕様を金鍍金、彫金部分を煮黒味と決定。



引手F(黒木書院)

- ・表面全体に煮黒味を施すため彫金後にこすするため魚々子が浅くなるが、そのために深く彫金しなくてよい。
- ・煮黒味の発色は通常の濃度、時間で行うのが良い。

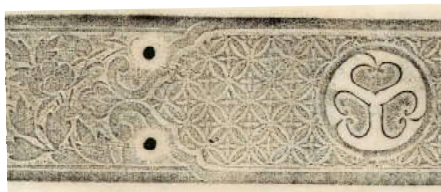


引手S1(上洛殿入側舞良戸)



同左試作品

- ・葵紋が表面的に膨らみすぎている。
- ・覆輪、葵紋とも立ち上がりを垂直に近く、くっきりとさせる。
- ・全体的に彫金をもっと浅くする。凹凸がありすぎる。



違棚 天袋底板



同左試作品

- ・葵紋の彫金具合は引手S1を参考にすること。
- ・七宝繋ぎ中の花卉はもう少し長い。彫金の際、少し意識するように。



上洛殿帳台構 上框 八双金具

- ・尾羽の先端の尖りは丸める。
- ・胴、翼、尾羽で出を変えて立体感を出す。
- ・大和苔があるが表現が少し違う。苔をへこませるように彫金する。



同上 試作品